

東京
芸術
劇場

Tokyo
Metropolitan
Theatre

tv asahi
なんでも!クラシック 2014

55
tv asahi
55th anniversary

2月10日(月)19:00~ 東京芸術劇場 コンサートホール

なんでも!クラシック 特別公演

中村絃子デビュー55周年

~グリーク&ラフマニノフ ピアノ協奏曲第2番の夕べ~

名実ともに日本を代表するピアニスト・中村絃子。テレビ朝日と彼女はある共通点が……。何とデビューが同じ“同期”なのです。二つの協奏曲に加えて、デビュー55周年を祝し、楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」第一幕への前奏曲を演奏します。

ケン=デイヴィッド・マズア(指揮)／中村絃子(ピアノ)／東京フィルハーモニー交響楽団(演奏)

S席=8,000円 A席=7,500円



ケン=デイヴィッド・マズア

©Beth Buckley



中村絃子

©Hiroshi Takaoka



東京フィルハーモニー交響楽団

©K.Miura

曲目/解説

ワーグナー:楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」第一幕への前奏曲

ドイツの大作作曲家、リヒャルト・ワーグナー(1813~1883)は、主にオペラの分野で音楽史上決定的ともいえる業績を遺しました。中でも、その上演のために特別の劇場をワーグナー自ら作ってしまった4部作「ニーベルングの指環」が有名です。「ニュルンベルクのマイスタージンガー」は、1868年、ミュンヘンの宮廷劇場で初演が行われた全3幕の喜劇で、中世のニュルンベルクを舞台に、マイスタージンガー、すなわち親方歌手たちの騒動と大団円を描き、ひいては、ドイツ芸術の栄光とワーグナー自身の勝利を謳い上げたものです。威厳たっぶり、辺りを払うような堂々たる第一幕への前奏曲に、そのエッセンスが現れています。

グリーク:ピアノ協奏曲イ短調 作品16

第1楽章 アレグロ・モルト・モデラート

第2楽章 アダージョ

第3楽章 アレグロ・モデラート・モルト・エ・マルカート

フィンランドのジャン・シベリウスと並び、お隣ノルウェーに生まれたエドヴァルド・グリーク(1843~1907)は、スカンジナビア半島の音楽史上、最も代表的な作曲家です。主作品に、劇音楽「ペール・ギュント」やピアノのための抒情小曲集、室内楽、数々の歌曲等があります。特に、北欧の大自然を感じさせるダイナミズムと美しさに満ちたピアノ協奏曲は、1869年の初演当時から多くの聴衆を魅了してきました。第1楽章冒頭の荒々しいティンパニの連打と全管弦楽、ピアノの強奏は、フィヨルドへ流れ落ちる滝の描写といわれ、夢見るように甘美な第2楽章を経て、ノルウェー舞曲のリズムが活躍する第3楽章をピアノと管弦楽の壮麗な競演で締めくくります。

ラフマニノフ:ピアノ協奏曲第2番ハ短調 作品18

第1楽章 モデラート

第2楽章 アダージョ・ソステヌート

第3楽章 アレグロ・スケルツァンド

2メートル近くの長身と大きな掌を持ち、強靱な技巧と温かな音色を兼ね備えて20世紀最大のピアニストといわれるのが、ロシア出身のセルゲイ・ラフマニノフ(1873~1943)です。4つの協奏曲や2つのソナタをはじめ、多くのピアノ作品を作曲しており、いずれもピアニスティックな効果に富んだ傑作揃いですが、1901年、作曲者自身の手によって初演された第2番の協奏曲ほどよく知られたピアノ協奏曲も少ないでしょう。古くは、1945年のデイヴィッド・リーン監督「逢ひき」をはじめ、「のだめカンタービレ」、浅田真央選手のソチ冬季オリンピックまで、多くの映画、テレビ、催しに使用されています。鐘を表す力強いピアノ独奏から哀愁のこもった管弦楽の第1主題が導入され、やるせない第2主題とドラマチックな展開を見せる第1楽章、ロシアの遙かな大地に吹く風のような第2楽章、華々しい技巧の限りを尽くす第3楽章と、ピアニストの腕の見せ所がこれでもかとばかりに連続します。

お問い合わせ:チケットスペース 03-3234-9999(月~土10:00~12:00/13:00~18:00)

※料金は全て税込・全席指定となります。

※やむを得ぬ事情により、出演者、曲目に変更が出る場合がございます。